

愈々総選挙である。マスコミの予想では自民党大敗、民主党を中心とした連立政権の誕生である。一度位民主党にやらせて見ても良いではないかとの国民の意識、自民党の見苦しい内紛劇への失望や麻生総理への期待の大きさからきた反動もあり、マスコミが報じるとおり政権交代が行われるかもしれない。

前号でも述べたが、内憂外患の折、こんな政治的空白が許されるのだろうかとの想いもある。然しながら、事実上の選挙戦に突入したとも言われる現在における小生の愚見を述べたい。



1 民主主義は衆愚政治と墮す！

二大政党による政権交代可能な政治システムが望ましいのだろうか。自公の与党も民主党も大衆迎合的な政策を並べ立てている。国民に甘い、美味しい話を提示して票を得んとしている。ポピュリズムの最たるものだ。日本の民主主義が成熟しているとは言えない

現状では、甘言に踊らされやすい。その結果としての衆愚政治の到来である。考えてみれば、五五年体制といわれた時代が良き時代だったのかもしれない。政権を獲得見込みのないイデオロギー政党がいるお陰で自民党は色々と問題を起こしつつも諸政策を実行し得たのであり、国家の基本事項についても抵抗を受けながらも遂行し得たのである。

2 国家の基本問題を争点にすべし！

民主党が、政権奪取の蓋然性が高くなったからか、安全保障政策等で現実路線に転換しつつある。それはそれで望ましいことではあるが、それでは今迄のソマリヤへの自衛隊派遣、海賊法案或いは貨物検査法案への対応は何だったのだろうか。政局の為だったと誇られても返す言葉はなかろう。

今次総選挙は政権選択選挙とも標榜されている。それであるならば、尚の事、国家の基本的事項についてきちんと基本方向を明示して国民の判断を問うべきである。憲法改正問題や国家安全保障基本政策、日米安保、集団的自衛権、或いは在留外国人への参政権付与に掛かる事項等について国民の判断を仰ぐべきである。また、日本を取り巻く安全保障環境は極めて厳しいものがあり、日本は如何に対処するかを明確にして選挙に臨むべきである。

自民党は立党の精神・原点に立ち返り、あるべき論を積極的に訴えるべきであり、これ

以外に自民党の凋落を止める方策はない。

また、民主党も党の基本政策を党内的に整理して国民の前に提示すべきである。その過程で、異論が噴出して離党者が出て止むを得ないだろう。それ位の真摯な議論が為されなければならない。分裂に至るような政策には敢えて目を瞑って封印するというのはフェアではない。政権を獲らんが為の野合でしかない。

何れにしても、政権選択選挙であるならば、それらをきちんと国民に提示する責任があり、国民はそれを要求すべきである。争点を矮小化させてはならない。

3 見苦しきかな！

地方選挙の連戦連敗を受けての両院議員総会を求める自民党有力幹部の動きは、心ある国民の失笑を買ったのではなかろうか。自民党が見限られたとも言える。

確かに総理には、総理としての資質に欠ける面がないとは言わないが、自分達で選挙の顔として選んでおきながら、選挙が近づいてきたからといって引きずり下ろそうとする。それはないだろうと誰しも思う。一般国民の常識からずれている自民党有力幹部のお歴々だ。

恥ずかしい限りだ。ご退場願いたいものである。

4 ガラガラポンを！

総選挙の結果、自公の与党は過半数に届かず、民主党が単独では過半数を確保出来ず、社民党等と連立を組んで政権を握ることも予想されるが、基本政策の違いの大きい社民党等との連立は野合以外の何物でもなく、過去の歴史に照らしてみても、いずれ破綻するのは目に見えている。

であるならば、本来ならば、選挙前にガラガラポンをして政策本位の政党を結成するか、あるいは再編成を行うべきであるが、それが叶わぬとあらば、選挙結果を受けて、直ちに政界再編成が行われるべきである。

日本が直面したことの無い未曾有の国難に舵取りを任せ得る政治家が選出されることを切望すると共に、基本政策をメインにした議論が行われ、国民の審判が下されなければならない。今後の展開を期待したい。

(了)